

ブンペン都

コミュニティベースでの廃棄物管理改善

～ Boeung Trabek水路の取り組み事例 ～

第IV章 草の根プロジェクト事業の仕上げ

1.アクションプランの評価

1-1.アクションプランの進捗状況の確認(Zoom会議)

1-2.現地報告とディスカッション

1-3.現地調査にもとづくアクションプランの評価

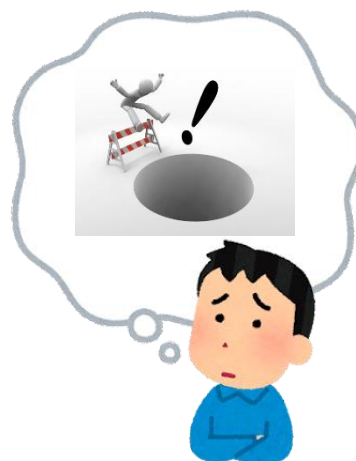
高倉弘二 工学博士,技術士(衛生工学・環境)

北九州国際技術協力協会
高倉環境研究所

1-2.現地報告とディスカッション (2022年5月)

2021年11月にZoom会議を利用して各サンカット長からアクションプランの実施状況を聞き取り、それを評価として取りまとめてから、渡航できずに、さらに6か月が経過してしまいました。しかし、COVID-19パンデミックによる渡航規制も漸次緩和され、2022年5月に渡航可能、現地へ渡航してのプロジェクトが再開されました。

現地活動の目的は、アクションプランの評価に対する現地のエビデンス(裏付け)を取り付けることです。私は特に心配性の質(たち)ではないと思っはいるのですが、この6か月間何かアプローチしたわけでもないのに、いつものごとく、「マンネリ化の落とし穴」に陥(は)まっているのか、住民のモチベーションが下がっていないのかということをお心配してしまいます。



1.アクションプランの評価

アクションプラン評価の報告と現地確認：2022年5月

目的

2021年11月に実施したZoom会議の情報をもとにアクションプランを評価したところである。5サンカットでタウンミーティングを開催して、北九州市側のアクションプランの評価を報告するとともに、現地調査をもとに最新の生情報から評価と現状との整合性を確認する。

実施事項

- 副知事、廃棄物管理局(廃棄物管理公社)、環境局、チャムカーモン区及びボンケンコン区、5サンカット長にアクションプランの評価を報告する。
- 5サンカットでタウンミーティングを開催し、廃棄物管理を推進する主要メンバー(環境ボランティア等のフォーカルポイント)にアクションプランの評価を報告する。
- 5サンカットの廃棄物管理の現状を把握するために、現地調査(現況観察と聞き取り)を実施する。

現地調査に当たっては、フィルターのかからない生の情報を得るためにサンカットのフォーカルポイントの同行は求めない。

現地で活動するに当たり、まずは、キックオフミーティングの場でカウンターパートの主要メンバーである副知事、廃棄物管理局長、環境局長、チャムカーモン区長、ボンケンコン区長、5サンカット長に対して、私たちのアクションプランの評価を説明・報告します。その後、サンカットごとにアクションプランを推進する環境ボランティア等のフォーカルポイントが集まるタウンミーティングを開催し、同様に評価について説明・報告するとともに、現地の廃棄物管理に係わる状況を聞き取ります。

そして、それぞれのサンカットでのタウンミーティングが終わってからは、現地の廃棄物管理に係わる状況観察と住民からの聞き取り調査を実施します。なお、現地調査では、今までのようにサンカット長やフォーカルポイント等のサンカット関係者が同行するのではなく、私たちだけで実施し、住民にとって気兼ねなく話せる雰囲気をつくるように心がけました。

なお、キックオフミーティングはリモート参加(北九州市)とのハイブリッド形式で実施するために、プロジェクター映像が良く見えるように小会議室が使用されました。今までは、参加者が多いということもありましたが、大会議室で実施しており、対面ではあるものの、私たちとカウンターパートとの距離は約4m程度ありました。小会議室では写真からも分かるように1m程度と近くなり、マスクをつけていても顔の表情が良くわかります。そして、冒頭の副知事の挨拶時に、私をじっと見て「ちょっと老けましたね。」とジョークを交えて話が進みました。COVID-19下で現地への渡航は間が開いてしまいましたが、両者の関係性は良好であることを物語る一場面だと思います。



キックオフミーティング
久しぶりの活動再開

1.アクションプランの評価

アクションプランに対する北九州市の評価について報告

アクションプラン：各サンカットの住民意見をもとに作成したアクションプランのベースをもとに、北九州市での訪日研修の仕上げとして、研修で得られた知識・知見により行政施策としてのアクションプランを作成し、実施している。

アクションプランに対する評価

アクションプランはほぼ達成されており、これは行政トップ並びにサンカット長をはじめフォーカルポイントが中心となってアクションプランを推進し、住民もこれを理解して取り組んだ結果である。

I.住民へのごみ管理に関する教育・啓発活動：各サンカットのフォーカルポイントが中心になって推進し、ごみ管理改善の効果をあげている。

II. シントリ社のごみ収集ルールの明確化：ごみ出しルールが政令で明確に定められ、また、ごみ収集運搬が3社体制になったことで、シントリ社のごみ収集方法が改善されると同時にシントリ社と住民の関係が良くなっている。

当プロジェクトで実施する廃棄物管理改善に係わるアクションプランは、北九州市とプノンペン都の間でのハイレベルセミナー等を通じて作成したものではありません。サンカットごとにタウンミーティングやワークショップを繰り返し開催し、住民の意見とアイデアをアクションプランのベースに据えました。そして、廃棄物管理改善を現場で陣頭指揮するサンカット長や行政幹部を招聘する北九州市での訪日研修(2019年8月)を実施し、そこでは、アクションプランをプノンペン都の行政施策として策定し、それを実施するために必要な知識・知見を得るとともに、アウトプットとしてアクションプランが策定されました。なお、副知事はアクションプランを完遂すると明確なコミットメントがなされています。

私たちのアクションプランの進捗に対する評価は次の通りです。

I.住民へのごみ管理に関する教育・啓発活動：各サンカットのフォーカルポイントが中心になって推進し、ごみ管理改善の効果をあげています。

- ・ ボランティアの募集：アクションプランのスタートに合わせてサンカットとして公式に任命しています。
- ・ 住民説明会：サンカットの月例会中で、ごみ出しルール等のごみ管理について説明しています。
- ・ ごみ収集のガイドブックの作成：未作成です。
- ・ 住民表彰の実施：未実施ですが、表彰制度の必要性は認識しており、今後実施予定です。

II.シントリ社のごみ収集ルールの明確化：ごみ出しルールが政令で明確に定められ、また、ごみ収集運搬が3社体制になったことで、シントリ社のごみ収集方法が改善されると同時にシントリ社と住民の関係が良くなっています。

- ・ シントリ社と協議しごみ収集ルールを明確化：廃棄物管理局がごみ出しルールを決定しプノンペン都の通達第20号・第120号として施行(2021年11月)されました。

1.アクションプランの評価

アクションプランに対する評価

Ⅲ. 水路の浚渫と清掃活動：公共事業局による水路浚渫時のごみ量は確実に減少している。

Ⅳ. ルール違反に対する取り締まりと罰則の制定：罰則は条例化にされ、その運用は各サンカットに委ねられる。

未実施の項目

- ・ ごみ収集のガイドブックの作成
- ・ 住民表彰の実施
- ・ チャムカーモン区とボンケンコン区合同の水路及び道路の清掃イベントの実施(ただし、当プロジェクトの終了時の成果として象徴的に実施)

Ⅲ.水路の浚渫と清掃活動：公共事業局による水路浚渫時のごみ量は確実に減少している。

- ・ 公共事業局による計画的な浚渫：公共事業運輸局の計画にもとづき浚渫を実施しており、PDTの実施例では以前の浚渫時のごみ量はトラック 400 台程度であったが、アクションプラン実施の成果として、直近の浚渫ではトラック 100 台程度に減量化しています。
- ・ チャムカーモン区とボンケンコン区合同の水路及び道路の清掃イベント：イベントとしては未実施です。

Ⅳ. ルール違反に対する取り締まりと罰則の制定：罰則は条例化にされ、その運用は各サンカットに委ねられる。

- ・ 取り締まりルールの明確化：プノンペン都廃棄物管理に関する政令(2015.08.27) 第7章に定める罰則をプノンペン都全体で明確に運用することが決まりました(ただし、実際の適用は慎重)。

アクションプランはほぼ達成されており、これは行政トップ並びにサンカット長をはじめフォーカルポイントが中心となってアクションプランを推進し、住民もこれを理解して取り組んだ結果であると言えます。

未実施の項目である「ごみ収集ガイドブックの作成」「住民への活動に対する表彰」については、代替措置や適用の時期などについてサンカットから意見を求めました。また、水路及び道路の清掃イベントは当プロジェクトの終了時の成果として象徴的に実施することを私たちから提案する予定です。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BKK2サンカット-1

会場：役場 参加者42名

- 住民に対して「ごみを水路に捨てない」「ごみを袋に確実に入れる」「ごみは時間通りに出す」などのごみ管理のルールについて継続的に啓発している。
- これにはフォーカルポイント20人が、環境ボランティアとしての自覚と責任を高く持って活動していることによる。
- 水路沿いの道路はきれいになっており、是非ともその様子を見てほしい。
- 2階以上に住む住民は、ごみ出し時間である18:00～19:00の間は仕事に出ているため、時間外にごみ出ししている。
- ごみ管理の改善は90%程度達成していると判断している。ごみのパッケージはできているが分別は不十分であり、住民が理解できていない。
- シントリ社についてはごみの収集が改善されており、また、シントリ社スタッフであることを明確にするためにユニフォームを着るようにしている。
- シントリ社による緑のごみ箱は大通りにはあるが路地には設置されていない。
- エッチャイの散乱ごみはシントリ社スタッフが清掃している。

BKK2 サンカットでのタウンミーティングでは、ディスカッションに入る前に、私たちからアクションプランに対する評価について、キックオフミーティングと同様に説明・報告をしました。

タウンミーティングにはサンカット長、廃棄物管理局、フォーカルポイント20名と住民20名の計42名が参加し、私たちがアクションプランの評価を説明・報告すると、「ホッとした」「良かった」「その通りだ」との安堵した様子が彼らから伝わってきました。

サンカット長等のごみ管理に係わる現況説明の中で印象的なことが2点あります。

1つは「ごみ管理のルールについて継続的に住民に啓発しており、これはフォーカルポイント20人が、環境ボランティアとしての自覚と責任を高く持って活動していることによる。」ということです。これは、ごみ管理が改善した要因として、地域の住民から選出されたフォーカルポイントは一人の住民として、また、廻りの住民を牽引して活動するという住民に身近な存在であったことがあげられます。また、サンカット長として私たちの前でフォーカルポイントの労をねぎらっており、これはサンカット長の心配りの表れであると思います。

2つは「水路沿いの道路はきれいになっており、是非ともその様子を見てほしい。」ということです。これはサンカット長のごみ管理改善の達成率を90%程度と自己評価もしていることから、自分たちの取り組みの自信の表れと同時に、私たちへアピールしていると考えられます。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BKK2サンカット-2

- ごみ分別用の袋が配布できていない。
- ごみ管理ルール違反についての罰則が条例として定められたが、住民に対して適用したくないのでルールを守ってほしい。

ごみ管理ルールのポスターについての要望

- A2サイズの大きさ
- ルールの説明は言葉だけでなくカラーで絵や写真で表現すると分かりやすい。
- ルール違反に対する罰則の適用も記入する。
- ポスターだけでなく、道路に大きなパネルを設置すると良い。



ごみ管理改善の課題も残っており、ごみ出し時間である 18:00~19:00 の間に仕事で不在している住民は、時間外にごみ出しすることがあげられます。また、ごみを白袋と黒袋の2分別にすることができていない理由として、行政としてごみ分別用の袋が配布できていないことをあげています。これについては、住民が分別用の袋を用意することになっており、ごみ管理ルールが一部誤って伝達されているようです。このようなことから、ごみ管理ルールを徹底するためには、ごみ収集のガイドブックの作成し、正確なルールを伝達することが必要であると思います。

罰則については、プノンペン都廃棄物管理に関する政令(2015.08.27) 第7章に定める罰則をプノンペン都全体で明確に運用することが決まりました。既に違反切符の配布などの罰則適用の準備は整っています。しかし、その運用はサンカットに委ねられており、BKK2 では罰則の適用はせずに、住民のルール遵守の意識を高めることにしています。

作成が未実施のごみ収集のガイドブックについては、私たちから家庭で掲示できるポスターの作成を提案しました。日本でも同じだと思うのですが、冊子になってしまうと手軽に見ることができないし、どこかに仕舞い込んで忘れてしまったなどのことが良くあります。また、年配者によっては字が読めない方もいらっしゃいます。ごみ管理ルールとして台所などに掲示するとその利用率が上がると考えました。

ここでは、ポスターのサイズは A2 判で大きくし、図や写真などで分かりやすく表し、ルール違反に対する罰則の適用も含めてほしいとの要望が出ました。また、水路沿い等にパネルを設置することも要望として出ており、住民だけでなく道行く人に対してもルールを示し、不法投棄抑止としての効果も期待されます。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BKK3サンカット-1

会場：役場 参加者15名

- フォーカルポイントによる各家庭へのごみ出しルール、例えばごみ出し時間は19:00からなどの啓発活動を実施し、また、区レベル、サンカットレベルの清掃活動も実施している。
- 住民はごみ出しルールを守っているが、他の地域からの不法投棄があり、フォーカルポイントがこれを監視している。
- ごみ収集が1社独占から3社体制になり、ごみ収集の質が向上することができたのもプロジェクトのおかげと考えている。
- シントリ社は緑のごみ箱を設置し、また、スタッフはユニフォームを着用している。
- ごみパッカー車から汚水が垂れ流れており、これへの対応が必要である。

BKK3 サンカットでのタウンミーティングでも、ディスカッションに入る前に、アクションプランに対する私たちの評価について、BKK2 サンカットと同様に説明・報告をしました。

タウンミーティングにはサンカット長、廃棄物管理局、フォーカルポイント10名と住民3名の計15名が参加し、私たちがアクションプランの評価を説明・報告するに当たり緊張した面持ちで聞いていました。そして、報告が終わるとサンカットが捉えるごみ管理改善の状況と、私たちの評価に差がないことが分かり、安堵感が滲んでいることが伝わってきました。

サンカット長等のごみ管理に係わる現況説明の中で印象的なことが3点あります。

1 つは「フォーカルポイントによる啓発活動」「フォーカルポイントによる不法投棄監視」と端的に、フォーカルポイントがアクションプラン、すなわちごみ管理改善を牽引していることです。アクションプランでいうボランティアとしてのフォーカルポイントによる活動の有効性が確認されました。

2 つは「ごみ収集の質が向上することができたのもプロジェクトのおかげと考えている。」として、北九州市とプノンペン都が協働で取り組んだ結果、自分たちが汗を流して取り組むプロジェクトの結果が、住民にとって重要な問題点であったごみ収集改善に繋がったと認識しているということです。この認識は非常に大切なことであり、得られる結果は行動と考え方に大きく左右されるということです。

また、ごみ収集の改善点として「ごみパッカー車からの汚水の滴り」があげられただけであり、住民はシントリ社のごみ収集については満足しているようです。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BKK3サンカット-2

- ごみの2分別にエッチャイのごみ散乱抑止としての効果がみられる。
- エッチャイにはごみ出しが白袋と黒袋の2分別になったこと等の説明をしたことはないが、自然と白袋にしか資源ごみが入っていないことを理解したようである。

ごみ管理ルールのポスターについての要望

- A3サイズの大きさ
- ルールの説明は言葉だけでなくカラーで絵や写真で表現すると分かりやすい。
- ルール違反に対する罰則の適用も記入する。
- ポスターだけでなく、道路に大きなパネルを設置すると良い。



印象的なことの3つ目は、「ごみの2分別にエッチャイのごみ散乱抑止としての効果がみられる」ことです。以前の聞き取りでは、ごみを2分別しても収集時に混載されるため、「分別する意味がない」「分別しても無駄」との意見をよく聞いていました。しかし、ここでの聞き取りでは、ごみの分別はエッチャイによるごみ散乱抑制に寄与していることがわかりました。また、その効果だけではなく、エッチャイによる資源ごみの回収が促進されたのではないかと思います。

ごみの減量化とリサイクル化の基本はごみの分別です。しかし、分別ごみ収集後の後工程にリサイクルする仕組みがないと、ごみはすべて埋立処分場に運ばれることになります。結局は分別ごみは混載されて収集運搬されることになり、ごみ分別は自然消滅の道を辿るという現象は開発途上国ではよく見られる光景です。しかし、ここでは、住民はごみ分別から直接的に、ごみ散乱が抑制されたことで良好な住環境を得るというインセンティブが働いたと考えられます。このようなインセンティブの出現は珍しいことだと思います。

ここでは、ポスターのサイズはA3判で大きくし、図や写真などで分かりやすく表し、ルール違反に対する罰則の適用も含めてほしいとの要望が出ました。また、水路沿い等にパネルを設置することも要望として出ました。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BTサンカット-1

会場：役場 参加者32名

- 不法投棄が多い橋の角に花を植え整備したことで不法投棄が抑制された。
- シントリ社は定期的にごみ収集を行い、住民はごみ出しルールをよく理解している。
- ごみ収集が終わったにも関わらずごみ出しする住民があり、次のごみ収集まで家で保管するように注意するが守らないでいる。これは課題である。
- 仕事時間とごみ出し時間が重なっており、出勤前にごみ出しするようである。
- 昨夜の大雨で水路の水が溢れたが(バイクの半分の高さまで)、道路沿いは1時間程度で水が引いた。以前の状態と比較すると、すぐに水が引いたと感じる。
- 水路沿いにごみを投棄したり、ごみ収集時間にごみ収集に来ていなかったら大雨ごとにごみは水路に流れ込んでいたと思う。ごみで水路が塞がらず、また、ポンプ場にも大量のごみが押し寄せなかったので、ポンプフル稼働の能力が発揮された。

BT サンカットでのタウンミーティングでも、ディスカッションに入る前に、アクションプランに対する私たちの評価について、BKK2 サンカットと同様に説明・報告をしました。

タウンミーティングにはサンカット長、廃棄物管理局、フォーカルポイントと住民の計 32名が参加し、私たちがアクションプランの評価を説明・報告するに当たり緊張した面持ちで聞いていました。そして、報告が終わるとサンカットが捉えるごみ管理改善の状況と、私たちの評価に差がないことが分かり、安堵感が滲んでいることが伝わってきました。

サンカット長等のごみ管理に係わる現況説明の中で印象的なことが3点あります。

1 つは「不法投棄が多い場所に花を植え整備し、不法投棄が抑制された。」ことです。不法投棄が多い場所には「ごみを捨てるな」「罰金」などのポスターを張るなどして、不法投棄を抑止していましたが、ごみを捨てない雰囲気づくりをしていることです。「〇〇禁止」「罰金」などの否定的、消極的な言葉の使用は街の雰囲気を壊しかねないので、綺麗な街づくりという雰囲気をつくり出すことも大切です。

2 つは「大雨による洪水が生じても直ぐに水が引いている。これはごみ管理が改善された結果である。」と実感していることです。洪水の原因は、水路への不法投棄と不完全なごみ収集による水路へのごみの流れ込みが原因であると分かっていました。しかし、課題と原因、そして解決策も分かっていたはいましたが、十分な手が打てずに浸水被害という現状に甘んじていました。

これが打破できたことは喜ばしいことです。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション BTサンカット-2

- ごみ収集が1社独占から3社体制に変更したことが収集運搬が改善された要因であり、また、シントリ社スタッフの賃金が上がり仕事に対するモチベーションが高まっている。
- 現状のごみ管理を継続することをコミットする。

ごみ管理ルールのパスターについての要望

- A2サイズの大きさ
- ルールの説明は言葉だけでなくカラーで絵や写真で表現すると分かりやすい。
- ルール違反に対する罰則の適用も記入する。
- ポスターだけでなく、道路に大きなパネルを設置すると良い。



3つは「ごみ収集が3社体制に変わったこととシントリ社スタッフの賃金向上がごみ収集改善になっている。」と認識していることです。今までは、ごみ収集がいつ来るかわからない、ごみの積み残しがあるなど、ごみ収集に対しての不満が身近なシントリ社のごみ収集スタッフにぶつけられていました。私たちが現場調査した限りは、収集スタッフは昼夜を問わず、特に日中の厳しい日差しと暑さに耐えながら作業していました。彼らも必死になってごみ収集に当たっていたわけです。決して彼らの作業に問題があったわけではなく、ごみ収集体制に多くの問題がありました。今ではごみ収集体制が改善されたことで、住民も冷静にシントリ社スタッフの待遇改善にも目が向けられています。

課題もあり、ごみ出し時間を守らない住民がいることです。その理由として、単にごみを家に保管したくないだけでなく、仕事時間とごみ出し時間が重なっており、時間通りに出したくても出せない場合があるようです。

ここでは、ポスターのサイズはA2判で大きくし、図や写真などで分かりやすく表し、ルール違反に対する罰則の適用も含めてほしいとの要望が出ました。また、水路沿い等にパネルを設置することも要望として出ました。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション TTP1サンカット-1

会場：役場 参加者15名

- サンカットと廃棄物管理局が協力して地域を綺麗にすることができており、地域の清潔、サンカットの清潔がプノンペン都全体へと広がる第一歩である。
- 今後も北九州市の支援を受け、一層の廃棄物管理・環境の改善を推進し、チャムカーモン区の環境改善を目指すことをコミットする。
- 上層部からの指示だけでなく、サンカットとして住民の意見を拾い上げ、より良い環境づくりに取り組む。
- 村長5人、環境エージェント2人の計7人のフォーカルポイントが水路周辺の道路を綺麗に保つために監視しており、問題が生じればシントリ社と協議する。
- ごみ収集運搬会社が3社体制になり、ごみ収集が改善され、時には狭い路地に未収集のごみがあるが、サンカットからシントリ社に連絡すれば収集される。また、すべての住民までとはいかないがごみの分別に協力している。
- 以前はごみの収集を昼間にも行っていたが、今は21:00以降の夜間作業になり良かった。
- 道路清掃はシントリ社が朝と夕方に実施する。

TTP1 サンカットでのタウンミーティングでも、ディスカッションに入る前に、アクションプランに対する私たちの評価について、他のサンカットと同様に説明・報告をしました。

タウンミーティングにはサンカット長、廃棄物管理局、フォーカルポイントと住民の計15名が参加し、私たちがアクションプランの評価を説明・報告するに当たり緊張した面持ちで聞いていました。そして、報告が終わるとサンカットが捉えるごみ管理改善の状況と、私たちの評価に差がないことが分かり、安堵感が滲んでいることが伝わってきました。

サンカット長等のごみ管理に係わる現況説明の中で印象的なことが3点あります。

1 つは「サンカットという地域の活動がプノンペン都全体へと広がる第一歩である。」と捉えていることです。ごみ管理改善は当プロジェクトに参画するサンカットという限られた地域の問題ではなく、プノンペン都全体の問題点であり、その対応策・解決策をプロジェクトで取り組むことが、プノンペン都全域に波及すると考えています。

2 つは「サンカットとして住民の意見を拾い上げ、より良い環境づくりに取り組む。」ことです。今までもサンカットの月例会議を通じて、住民の意見を吸い上げていたと思います。しかし、カンボジアは独裁政権が続いたこともあり、住民に対しては上意下達の傾向が強くみられるように思います。そのなかで、サンカットとして住民の意見を拾い上げるとの考えを明確に打ち出したのは、当プロジェクトでアクションプランを作成するに当たり、丁寧に住民の意見・考え方をブレインストーミングで引き出す効果を目の当たりにしたからだと思います。すなわち、住民はアクションプランを自らがつくったとの思いも含めて活動しており、住民・考え方を反映することの大切さを知ったのではないかと思います。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション TTP1サンカット-2

- 水路の橋で移動屋台はごみ管理ができていない。
- ごみ収集パッカー車からの汚水の垂れ流しは、サンカットとシントリ社との協議で解決したい。
- エッチャイは、ごみの2分別により資源ごみが入る白袋だけをカッターのようなもので白袋を破る。この時、ごみの散乱は少なくなっているが、そこからごみがこぼれる。

ごみ管理ルールของポスターについての要望

- A3サイズの大きさ
- ルールの説明は言葉だけでなくカラーで絵や写真で表現すると分かりやすい。
- ルール違反に対する罰則の適用と健康被害についても記入する。
- ポスターだけでなく、道路に大きなパネルを設置すると良い。



3 つは「未収集のごみがあるが、サンカットからシントリ社に連絡すれば収集される。」「フォーカルポイントが水路周辺の道路を綺麗に保つために監視しており、問題が生じればシントリ社と協議する。」「パッカー車からの汚水の垂れ流しは、サンカットとシントリ社との協議で解決したい。」としており、サンカットとシントリ社との関係が良好であることがうかがい知れます。

疑義が生じたり、また、不具合が生じたりしたときは、一方的に「これをして欲しい。」「これをするべきだ。」「これはあなたの仕事でしょ。」と、相手に押し付けるのではなく、先ずは話し合う姿勢は重要なことです。力任せに物事の解決策を得るのではなく、話し合うことで、三人寄れば文殊の知恵ではありませんが、より良い方策が見つかるやもしれません。そして何よりも、両者の関係性を良好に保っておかないと、突発的なトラブルへの対処が遅れてしまいます。

課題も見受けられます。水路の橋で営業している移動屋台のごみ管理ができていないようです。また、エッチャイによるごみの散らかしは、資源ごみが入っている白い袋をカッター様の道具で切り裂くために生じています。手軽で安価に食事を提供する、資源ごみを回収する上で、両者ともに重要な役割を担っており、両者に対しては制度的な対策を講じることも必要であると考えられます。

ここでは、ポスターのサイズは A3 判で大きくし、図や写真などで分かりやすく表し、ルール違反に対する罰則の適用も含めてほしい、また、健康被害についての記述が欲しいとの要望が出ました。水路沿い等にパネルを設置することも要望として出ています。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション PDTサンカット-1

会場：役場 参加者12名

- ・ プノンペン都やサンカットによるごみ管理の啓発により、住民のごみ出しルールの理解が進み、また、ルールが守られており、以前よりもサンカット内の環境が良くなったと実感している。
- ・ 水路の浚渫量は以前と比較してずいぶん少なく、特に大雨で上流から流れてくるごみの量は少なくなっている。夫がポンプ場職員であり、家庭内でもそのような話題が出ており、浮遊ごみが少なくなったとことさら実感している。
- ・ 浚渫時には200~300tのごみと汚泥が発生し、ポンプ場近くは汚泥が溜まりやすく水深が浅いため浸水しやすく、生活に支障が出る。
- ・ ごみの収集についてシントリ社とともにサンカット内を調査し、路地はカート等を使用する必要があることを確認した。
- ・ ごみ収集状況をモニタリングし不十分な時はシントリ社に連絡している。
- ・ シントリ社のごみ収集が1回/4日から1回/2日と頻度が増え、また、散らかっているごみは集めて袋に入れて片づけている。
- ・ ごみ管理の啓発についてはシントリ社からもステッカーをもらっている。

PDT サンカットでのタウンミーティングでも、ディスカッションに入る前に、アクションプランに対する私たちの評価について、他のサンカットと同様に説明・報告をしました。

タウンミーティングにはサンカット長、廃棄物管理局、フォーカルポイントの計12名が参加し、私たちがアクションプランの評価を説明・報告するに当たり緊張した面持ちで聞いていました。そして、報告が終わるとサンカットが捉えるごみ管理改善の状況と、私たちの評価に差がないことが分かり、安堵感が滲んでいることが伝わってきました。緊張と安堵は5サンカット共通してみられました。

サンカット長等のごみ管理に係わる現況説明の中で印象的なことが4点あります。

1つは「住民のごみ出しルールの理解が進み、また、ルールが守られており、以前よりもサンカット内の環境が良くなったと実感している。」ということです。PDT サンカットは他のサンカットとは別の課題を抱えており、それは田舎等の他地域から流入してきた住民の不法居住者エリアがあるということです。不法居住者は生活レベルの低い貧困層であり、また、教育レベルが低いということ、そして、居住者の入れ替わりも多いため、ごみ管理改善のための啓発活動を地道に根気よく継続しなければなりません。しかし、サンカットとしてアクションプランに取り組み、ごみ収集体制が改善されたことも合わさったことで、不法投棄も含めごみ出しルールを守るなど住民の意識が変わってきました。

2つは「大雨で上流から流れてくる浮遊ごみの量は少なくなっている。」ことです。PDT サンカットは水路の最下流にあり、浮遊ごみの受け皿にもなっていました。そのため、サンカット内でごみ管理改善に取り組んだとしても、どうせ上流からごみが流れてくるので、取り組む意味がないとのあきらめ感もあったようです。しかし、5サンカット協働してごみ管理改善に取り組んだことで、その効果を実感することができました。

1.アクションプランの評価

環境ボランティア等とのディスカッション PDTサンカット-2

- コミュニティベースで活動するNGOワールドビジョンとONE TO ONEと協働で清掃活動を実施している。
- 開校式や子どもが集まるイベントを利用して子ども向けの環境教育を実施している。
- 水路沿いのイリーガル住民定住用のモデルハウスを建設はプロジェクトは休止している。(新型コロナの影響か?)

ごみ管理ルールポスターについての要望

- A2サイズの大きさ
- ルールの説明は言葉だけでなくカラーで絵や写真で表現すると分かりやすい。
- ルール違反に対する罰則の適用についても記入する。
- ポスターだけでなく、道路に大きなパネルを設置すると良い。



3 つは「シントリ社のごみ収集が 1 回/4 日から 1 回/2 日と頻度が増えている。」ことです。ごみ収集についてはサンカット内の狭い路地を効率よく確実に実施するために、サンカットはシントリ社ともに現地を調査しています。また、両者の関係は良好であり、シントリ社はごみ管理啓発ステッカーを提供したり、ごみ出し場所の散らかっているごみは片付けたりしています。やはり、良好なコミュニケーションは確実なサービスの履行だけでなく、プラスαの提供もあるということです。

4 つは「子ども向けの環境教育を実施している。」ことです。これは貧困層の子供たちの生活改善として、NGO の「ワールドビジョン」と「ONE TO ONE」と協働して取り組んでいることもあり、子供たちにしっかりとごみ管理改善を意識付けています。

ここでは、ポスターのサイズは A2 判で大きくし、図や写真などで分かりやすく表し、ルール違反に対する罰則の適用も含めて欲しいとの要望が出ました。水路沿い等にパネルを設置することも要望として出ています。

感謝

THANK
YOU